

【学校評価資料】

学校経営目標	具体的計画	令和6年度の達成基準	自己評価(中間)			自己評価(最終)			学校関係者評価
			達成状況	評価	改善策	達成状況	評価	改善策	自己評価の適切さ
1 心の教育の充実	【やさしい子】 ①道徳教育、人権教育、総社っ子応援プロジェクトの取組を充実することにより、児童同士の絆や思いやりの心を育て、長期欠席・不登校やいじめの未然防止に努める。 ②「すきだ総社小学校運動」すんで挨拶、きちんと歩行、だまって掃除を推進するとともに愛校心を育てる。 (総社を愛す子供)(心優しい子供)(礼儀正しい子供)	①思いやりの心をもって生活しているという回答が85ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【人間関係・特別支援教育】  ②進んであいさつができていているという回答が85ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【人間関係・特別支援教育】	児童:87.7p 児童:88.6p 〇思いやり 保護者:84.5p 教職員:91.3p	B	評価はBではあるが、経年的に見るとよくなってきている。9月からも道徳教育やくすの葉の取組等を継続していくようにする。それに加えて、協同学習を授業の中で積極的に取り入れ、児童同士の結びつきを強めるようにしていく。				
			児童:83.6p 保護者:82.5p 教職員:91.3p	B	高学年が中心となって、朝のあいさつ運動が活発に行われているので、継続して取り組むようにする。また、児童が中心となって取り組む活動を教師がサポートすることで、朝以外の場面でも、あいさつ運動を主体的に行っているという意識を持たせるようにしていく。地域の方へのあいさつが少いので、教師が呼びかけたり、下校のあいさつの様子を教師がくすの葉で紹介したりして、あいさつの輪を学校外でも広めるようにする。				
2 健康・体力づくりの推進	【たくましい子】 ③健康教育、特別活動を充実することにより、児童に基本的な生活習慣を身に付けさせる。総社東中学校ブロックの学校園と連携し、ノーメディアの取組を推進する。 ④目標をもって主体的に体力づくりに取り組み、体力の向上を図るとともに最後まで粘り強く頑張る態度を育てる。	③感染症対策として手洗い、換気を行っているという回答が85ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【保健安全】  ④睡眠とメディアコントロールを中心に、基本的な生活習慣が身に付くよう取り組んでいるという回答が80ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【保健安全】  ⑤自分から進んで運動しているという回答が80ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【保健安全】	児童:88.6p 保護者:90.8p 教職員:87.5p	A	引き続き、場や状況に合わせて、手洗いや換気の声掛けを行っていく。				
			児童:88.0p 保護者:82.2p 教職員:84.6p	A	家庭でのメディアのルールは、各家庭の考え方によるものが大きく、それをどうにかするというのは、家庭へかなり踏み込んでいかなければいけないため難しい。メディアのルールを話す際に、時間だけに注目するのではなく、メディアとの付き合い方におもきをおいた指導をしていくようにする。				
			児童:83.6p 保護者:83.2p 教職員:83.8p	A	昨年度よりポイントが下がっているのは、暑すぎたため、児童に積極的に外へ出るような声掛けをしにくい状況だったことが一因ではないかと考える。気候がよくなれば、外で遊ぶよう再び声掛けを行っていく。引き続き、運動委員会主催のチャレンジランキングに、学校全体で取り組んでいく。メディアコントロール週間に取り組んでいるメディアカードに「運動」に関する内容を新たに追加したことには効果があったため、引き続き取り組んでいく。				
3 確かな学力の育成	【すすんで学ぶ子】 ⑤児童が主体的・対話的で深い学びを实践し確かな学力を身に付けることができるように授業改善を行う。特に、考える活動や書く活動を重視する。 ⑥朝学習や総小チャレンジタイム、家庭学習の充実を図り、基礎学力の定着を目指す。	⑥自分の考えや振り返りを書いているという回答が85ポイント以上である。 (児童・教職員) 【学力向上】  ⑦国語と算数の単元テストの正答率8割以上の児童が、(低学年80%、中学年75%、高学年70%)80ポイント以上である。 (児童・教職員) 【学力向上】  ⑧家庭で10分×学年+10分勉強しているという回答が80ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【学力向上】	児童:84.7p 教職員:85.3p	B	教職員の意識と児童の意識に開きがなく、意識は高いと感じる。引き続き振り返りの視点を示し、振り返りの内容にも言及しながら進めていきたい。				
			教職員:81.5p	A	1学期は、基準を達成することができたが、学級や単元によって差があった。また、2学期以降に、学年ごとに難しい単元があることが分かっているため、今後も教材研究を行い、学年で学習の進め方を共通理解して行っていく。全国学力学習状況調査や岡山県学力学習状況調査での結果から分析した内容を、各学年で確認し、学力担当を中心に朝学習等で基礎学力の定着を目指す。				
			児童:86.1p 保護者:85.0p 教職員:82.0p	A	基準を達成することができた。自主学習ノートの掲示をしていく。また、他校のノートや中学校のノート掲示も引き続き行い、啓発をしていく。メディアコントロール週間などの期間を利用し、声掛けを積極的にしていく。				
4 地域とともにある学校づくり	⑦各種の便り、ホームページの更新、学校評価、学校公開等により、積極的に情報を発信する。 ⑧きらめきEASTの幼稚園、小・中学校や家庭・地域・関係機関等との連携を深め、児童の健やかな成長を図る。	⑨学校から積極的に情報発信が行われているという回答が85ポイント以上である。 (保護者・教職員)  ⑩安心・安全な学校生活を送るために、学校内外の安全確保の取組を行っているという回答が90ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員)	保護者:77.7p 教職員:86.6p	B	家庭では、各家庭での様子をその家庭の子を中心に評価されることが多いため、家庭では見られない学校での様子を学校だよりやHP、学級通信等で積極的に伝えられるよう教職員で共通理解のもと情報発信をしていく。「すぐるー」の活用も検討する。				
			児童:89.7p 保護者:84.8p 教職員:90.9p	B	保護者の回答の中に登下校の安全について、心配をしている意見があった。登下校時や下校後の危険な児童の行動等について、地域から連絡が入ることもあったので、その都度担当が指導を行った。通学路の危険箇所については、地区協議会から挙げられた資料を市へ提出している。登下校の安全については地区協議会と連携して対応していく。				